

アゼルバイジャンの花弁栽培

4 月 16 日に村落開発研究センター(農業省傘下の機関)で行われた会合において、これまで非公式団体として活動してきた「アゼルバイジャン花弁栽培・輸入・輸出業者協会」の正式な設立が認められ、ジャヴィド・アフンドフ会長及び 7 名からなる理事会が選出されました。以下、アフンドフ会長へのインタビューです(report.az 配信)。

1. 花弁栽培の中心はバラ栽培であり、バラに次いでチューリップ、ガーベラ等も栽培されています。現在、アゼルバイジャン国内栽培の半分以上は大規模温室栽培を行う、次の大手 4 社により行われています。ズイレ(Zire:アブシェロン半島)のアズ・ローザ(Az-Roza)社、ガラ(Qala:アブシェロン半島)のアゼルバイジャン・フラワーズ・カンパニー(Azerbaijan Flowers Company)社、ガバラ県(Gabala:北部)のアズローズ(Azrose)社、シエムキル県(Semkir:西部)のアズアグロ(AzAgro)社です。
2. 協会としては今後、業界全体の利益擁護を組織的に主導して、発展のために政府とも鋭意協議していく所存です。また、特に中小の栽培業者の支援に注力し、今年に予定されている一連の会合では、中小業者も招き、最新の栽培技術、肥料、病虫害対策、高額な電気料金対策等の検討、教育・研修機会の提供等を積極的に行っていきます。政府に対しては、栽培業者への補助金支給や輸入関税の引下げ等も働きかけていきたいと思っています。
3. 将来目標の一つは輸出で、ロシア、ジョージア、中東特にドバイ、中央アジア、中国等その他のアジア地域が有望輸出市場と考えており、現在、アゼルバイジャン輸出投資促進財団(AZPROMO)との連携も協議しています。
4. 他方で現在、花弁市場はコロナウイルスから大きな負の影響を受けています。市場全体が縮小している上、特にアゼルバイジャンでは冠婚葬祭や誕生祝い等の集い事が需要の中心にあり、それらが禁止されたことによる需要と価格の下落は大きな痛手となっており、感染の終息を待ち望んでいます。

(以上)